

平成24年度

”函館・大沼・噴火湾ルート”活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成23年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館・大沼・噴火湾ルート 代表 金道 太郎	報告年月日: 2013/3/31
---------------------	----------------------------	------------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
景観	美しい景観とは何かについて考える	景観診断の参加		-	-	-	-	-	「美しい景観とは何かについて考える」に関連した活動は今年度行っていない。
		テーマごとのエリアの紹介		-	-	-	-	-	
	ビューポイントを発掘する	シーニックフォト倶楽部の設立		-	-	-	-	-	「ビューポイントを発掘する」に関連した活動は今年度行っていない。
		H17シーニックバスツアーの開催		-	-	-	-	-	
		シーニックルートマップの作成		-	-	-	-	-	
		フォトコンテストの開催		-	-	-	-	-	
	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	清掃活動の実施	1	シーニック清掃活動	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	4月29日(祝)	主催者200名 一般参加50名		五稜郭タワーや函館市縄文文化交流センター等の観光客が多く集まる場所を中心に、おもてなしの気持ちを込めてシーニック清掃活動を実施した。また、今年で9年目となる「はこだて花かいどう」の植栽日には、参加者約1,000名が集まり、10,000株の花を植栽した。
		植栽活動の実施	2	はこだて花かいどう	函館花いっぱい道づくりの会	6月9日(土)～11月4日(日)	主催者1,650名 一般参加200名	A - 2	
		景観阻害の改善		-	-	-	-	-	
地域	自然を守りながらうまく活用していく	キャンプ&ラリーの開催		-	-	-	-	-	「自然を守りながらうまく活用していく」に関連した活動は今年度行っていない。
		横津岳ガイドツアーの開催		-	-	-	-	-	
		八雲の遊楽部川に代表される自然環境教育プログラムの提供		-	-	-	-	-	
	ガイドの発掘・育成	大沼公園ボランティアガイド研修会		-	-	-	-	-	函館バリアフリーボランティアプロジェクトと函館市縄文文化交流センタースタッフが連携して、相互に知識を伝え合い、ユニバーサルな縄文観光の実現に向けた第一歩とすることができた。
		ガイド発掘・育成のための連携づくり	3	ユニバーサルな縄文観光のための人材育成研修ツアー	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	11月24日(土)	主催者10名	A - 3	
	地域と来訪者の心をつなぐ	人と人とのふれあい方について勉強する		-	-	-	-	-	「地域と来訪者の心をつなぐ」に関連した活動は今年度行っていない。
	内部的な関心の共有、意識醸成	函館・大沼・噴火湾ルート活動団体一覧作成		-	-	-	-	-	「内部的な関心の共有、意識醸成」に関連した活動は今年度行っていない。
	地域メディアとのタイアップ	FMいるかの情報誌「いるか通信」に特集記事掲載		-	-	-	-	-	「地域メディアとのタイアップ」に関連した活動は今年度行っていない。
		FMいるかの特別番組「8月10日「道の日」による情報発信」		-	-	-	-	-	
		シーニックかるたの作成		-	-	-	-	-	

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館・大沼・噴火湾ルート 代表 金道 太郎	報告年月日: 2013/3/31
---------------------	----------------------------	------------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	地域資源を説明するカードの作成		-	-	-	-	-	「多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発」に関連した活動は今年度行っていない。
観光	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	バル街Ⅴ協賛イベント「街なか探訪・学びツアー」開催	4	シーニックdeナイト鑑賞バスツアー	シーニックdeナイト実行委員会	2月1日(金)～2日(土)	主催者1名 一般参加15名	A - 1	大沼のフィールドを活かしたスノーシュー体験や函館市縄文文化交流センター施設内での縄文体験、函館駅等におけるシーニックdeナイト鑑賞等を組み合わせたシーニックバスツアーを開催した。
		「旧恵山町のブナ林と春の野の花の観察と生きた火山恵山とその周辺の歴史を学ぶツアー」開催		-	-	-	-	-	
		「鹿部町間歇泉とホタテの耳吊り体験ツアー」		-	-	-	-	-	
	活動団体の連携強化と観光の質の向上	縄文文化を再現し、体験する歴史探訪ツアー	3	ユニバーサルな縄文観光のための人材育成研修ツアー	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	11月24日(土)	主催者10名	A - 3	活動団体同士の連携によるシーニックdeナイトの実施、バスツアーや研修ツアーの実施により、観光の質を向上することができた。
		西部地区の歴史的街並み探索ツアー	5	シーニックdeナイト2012～2013の実施	シーニックdeナイト実行委員会	12月24日(祝)～2月16日(土)	主催者1,890名 一般参加520名		
		温泉宿泊施設を拠点に各種体験を交えた「癒し」のツアー	4	シーニックdeナイト鑑賞バスツアー	シーニックdeナイト実行委員会	2月1日(金)～2日(土)	主催者1名 一般参加15名	A - 1	
		ルート全体で取り組む「スマイルキャンペーン」		-	-	-	-	-	
		場所を変えた観光分科会の開催		-	-	-	-	-	
	歴史を学び活かす	「函館の歴史を学ぶ」講座		-	-	-	-	-	「歴史を学び活かす」に関連した活動は今年度行っていない。
		「函館の港を船上から学ぶ」講座		-	-	-	-	-	

活動名：はこだて花かいどう

【概要】今年で9年目となるはこだて花かいどうの取り組み。6月9日（土）の植栽日には、小中学校やスポーツ少年団、町会など約1,000人が集まり、約10,000株の花苗を植栽しました。また、撤去した花をミミズを使って堆肥化させる循環型の活動も継続して実施しています。

【日時】平成24年6月9日（土）～11月4日（日）

【場所】函館新道

【主催】函館花いっぱい道づくりの会

【参加人数】主催者：約1,650名 一般参加：約200名



▲ミミズの投入！



▲ミミズの採集



▲ミミズ。。

活動名：ユニバーサルな縄文観光のための人材育成研修ツアー

【概要】 函館駅等で高齢者や障がい者の移動のお手伝いを行っている函館バリアフリーボランティアプロジェクトと縄文の知識を有する函館市縄文文化交流センタースタッフが連携して、「車椅子利用者や障がい者に対する介助方法」と「縄文文化の知識」を相互に共有することにより、ユニバーサルな縄文観光の実現を図るために研修ツアーを実施しました。

【日時】 11月24日（土） 10:00～16:00

【場所】 函館市縄文文化交流センター

【主催】 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

【参加人数】 主催者：10名



▲車椅子利用者の介助方法講習



▲視覚障がい者の介助方法講習



▲修了書授与

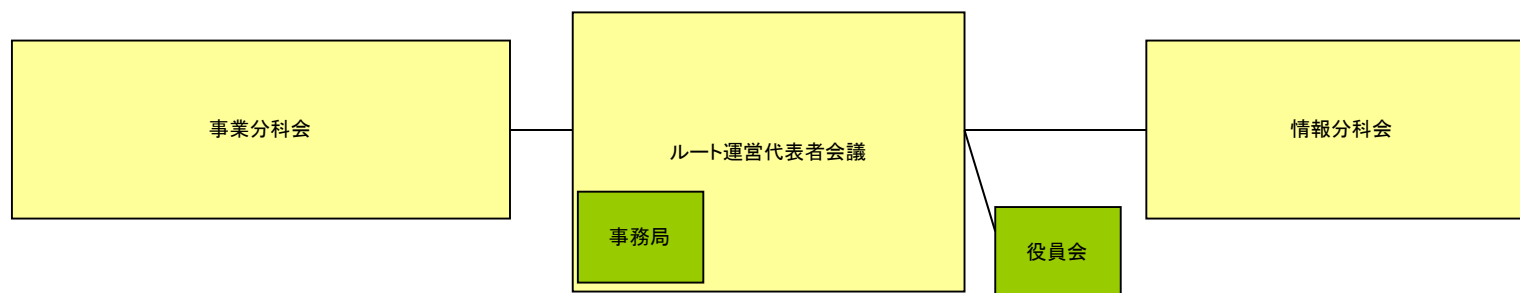
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館・大沼・噴火湾ルート 代表 金道 太郎	報告年月: 2013/3/31
---------------------	----------------------------	-----------------

活動団体

函館商工会議所、(一社)函館国際観光コンベンション協会、函館湯の川温泉旅館協同組合、函館商工会議所青年部、函館21の会、函館湯の川温泉旅館協同組合青年部、NGO函館自然観察会、NPO法人スプリングボードユニティ21、北の縄文CLUB、NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、NPO法人どうなん?学びサポートセンター、NPO法人函館エコロジークラブ、活力ユニット、函館すぶれっと、はこだて菜の花プロジェクト、ふしぎな花倶楽部、函館花いっぱい道づくりの会、函館手工芸の会、(財)北海道国際交流センター、NPO法人NPOサポートはこだて、戸井コミュニティビジネス研究会、NPO法人NATURAS、北斗市観光協会、七飯町商工会、(一社)七飯大沼国際観光コンベンション協会、鹿部温泉観光協会、森町観光ボランティアガイドの会、森町花いっぱい運動推進協議会、八雲観光物産協会

ルート運営体制(活動団体)

[illegible]

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館開発建設部	報告年月: 2013/3/31
---------------------	--------------	-----------------

[illegible]

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート				報告者: 函館開発建設部	報告年月: 2013/3/31		
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成24年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	美しい景観とは何かについて考える	—	—	—	—	清掃活動や植栽活動といった景観向上に向けた取り組みに、多くの機関及び人数が参加した。	—
	ビューポイントを発掘する	—	—	—	—		—
	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	シーニック清掃活動	4月29日(祝)	函館開発建設部、渡島総合振興局、函館市、七飯町	五稜郭タワーや函館市縄文文化交流センター、函館市地域交流まちづくりセンター等で行われたシーニック清掃活動に参加し、ゴミ拾いに協力した。		1
		はこだて花かいどう	6月9日(土)～11月4日(日)	函館開発建設部、渡島総合振興局、函館市	植栽日や撤去日に参加、また、7月から9がつにかけての月1回の維持活動に参加し雑草取りや花柄摘み、周辺の清掃活動も行った。		2
地域	自然を守りながらうまく活用していく	—	—	—	—	地域に関連する活動自体が少なく、行政機関の成果も見られなかった。	—
	ガイドの発掘・育成	ユニバーサルな縄文観光のための人材育成研修ツアー	11月24日(土)	—	—		3
	地域と来訪者の心をつなぐ	—	—	—	—		—
	内部的な関心の共有、意識醸成	—	—	—	—		—
	地域メディアとのタイアップ	—	—	—	—		—
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの作成	—	—	—	—		—
	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	シーニックdeナイト鑑賞バスツアー	2月1日(金)～2日(土)				4

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館開発建設部	報告年月: 2013/3/31
---------------------	--------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成24年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
観光	活動団体の連携強化と観光の質の向上	ユニバーサルな縄文観光のための 人材育成研修ツアー	11月24日(土)	-	-		3
		シーニックdeナイト2012～2013の実 施	12月24日(祝) ～2月16日(日)				5
		シーニックdeナイト鑑賞バスツアー	2月1日(金)～2日 (土)				4
	歴史を学び活かす	-	-	-	-		-

※表中“★”は、H24新規に実施し
た活動

5. 平成23年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館・大沼・噴火湾ルート 代表 金道 太朗	報告年月: 2013/3/31
---------------------	----------------------------	-----------------

平成23年度活動報告への助言	平成24年度 状況報告	備考
シーニックバイウェイ北海道の持続的かつ発展的な推進を図るため、多様なツール、手法を駆使した情報発信やPR活動等を戦略的に行い、ブランドの形成、地域への浸透、海外を含めた他地域との交流促進に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。	情報発信やPR活動等については、HPや新聞、テレビメディア等を活用したものにとどまり、戦略的に情報発信を行うことができなかった。また、シーニックdeナイトでは、追分シーニックバイウェイルートとの連携を図り実施したが、海外との交流促進には至らなかった。最後に、「縄文をテーマとしたユニバーサルな学びツーリズムと青函交流の推進事業」では、東北の日本風景街道関係者や縄文は川館等の方々と交流促進に努めるとともに、函館バリアフリープロジェクトとの既存組織と函館市縄文文化交流センタースタッフが連携し、相互に知識を伝え合うことで、ガイドのスキルアップを図るなどルート活動の基盤強化を行った。	

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館開発建設部	報告年月: 2013/3/31
---------------------	--------------	-----------------

平成23年度活動報告への助言	平成24年度 状況報告	備考
シーニックバイウェイ北海道の持続的かつ発展的な推進を図るため、多様なツール、手法を駆使した情報発信やPR活動等を戦略的に行い、ブランドの形成、地域への浸透、海外を含めた他地域との交流促進に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。	シーニックdeナイトで使用するワックスキャンドルを作るにあたって、牛乳パック収集やワックスキャンドル製作など、行政連絡会議メンバーの幅広い機関の参加により実施することができた。	